

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、21～25℃台を示し、平年並みでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、ゴマサバなどが1日1統当たり7トンの水揚げで、前週の35%（前年を下回った）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり2トンの水揚げで、前週の67%（前年並み）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり20トンの水揚げで、前週並み（前年並み）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり11kgの水揚げで、前週の79%（前年並み）。壱岐勝本地区では1日当たり356kgの水揚げで、前週の21%（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり44kgの水揚げで、前週の50%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では1日当たり662kgの水揚げで、前週の34%（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり542kgの水揚げ。対馬西岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり82kgの水揚げ。対馬東岸地区では、タチウオなどが1日1統当たり296kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、イサキが1日当たり315kgの水揚げ（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/19～10/24の6日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、大和堆周辺で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～山陰沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）では4日延48隻、総計10,379箱、1航海最高415箱、平均216.2箱。スルメイカ（20～30入）10,371箱、ケンサキイカ（3～4立）8箱の混獲となった。なお、赤イカは調査船1隻のみ操業。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>